

第3・4半期末金融事業取扱実績

転貸融資の落ち込み続く

金融助成終了で影響懸念

証ス 保ビ 北サ

北保証サービス㈱（小林健二社長）は、第三・四半期末の金融事業取扱実績をまとめた。地域建設業経営強化融資制度（転貸融資）は、単月の十二月分が一億八千万円で前年同期比六四・九％減。十二月末の累計では、六億四千三百万円と同四七・四％減と約半分となった。基金の枯渇で金融助成等が終了したことが

ら、「転貸融資の活用も前年度を下回ることになりその」と影響を危惧している。転貸融資の第三・四半期末取扱実績は市町村三十一件、三億九千万円、国五件、一億六千二百万円など。月別では、四月から五月までが実績ゼロ。八月から三月間は前年同期を上回ったものの、十一月か

らは一転して五〜六割の減となった。

昨年十月、基金の枯渇で出来高査定費用を含む金融助成等が廃止。同社では利用者の負担が出ることから〇・二五％を融資利息から一律に引き下げたが、出来高査定費用の実額を補うま

ではに至らず、十二月末の累計は低調な実績にとどまっている。担当者によると、「出来高五〇％以上を対象にする融資なので、取扱いが集中する二〜三月に期待している。ただ、この状況だと前年度実績を下回

ることになりそう」と分析する。

一方、下請債権保全支援事業（保証ファクタリング）は単月の十二月分が七千百万円で前年同期比六八・八％減。十二月末の累計は、六億四千六百万円と同五五・九％減となった。

これまでの財政出動で建設企業の経営が改善され、全国的にファクタリングを扱う量が減少しているという。それを証明するかのようには昨年九月は、初の「ゼロ実績」となった。